
偉大なる意志との契約者

華憐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偉大なる意志との契約者

【Nコード】

N7502M

【作者名】

華憐

【あらすじ】

【この小説は「そうだ！ 境界神になろう！！」を修正した小説です】

少年は事故で死んじやいました

ですが本来の運命では起きなかったはず

やはりこの事故は神のミスで起きてしまった

神がチート能力をつけて転生させる（テンプレ）だったはずが別の神に気に入られたことから新たな物語は始まる

【この小説はご都合主義でできています、嫌いな人はあまり読まないほうがいいと思います】

01 状況確認 てかプロローグは？

……

……

…

「……ここは何処だ？」

俺は何故か可笑しいとこにいる

見渡す限りが白、白ばかりの部屋？……部屋だよなこれは

そつか、これがマッチ箱の中に入れられた蟻か……

「ってボケる俺も余裕があるんだよな……」

しっかしなあ……

俺は死んだはずだよな

「でもこの身体は確かに俺の身体だし」

まさか！？　これが小説でよくある異世界トリップか！！

まったく難儀な……

「少年よ……」

「!?!? だ、誰だ!!」

周りを見ても誰も居ねえ

でも確かに聞こえた

「少年よ……」

「どこかに居るんだろ! 姿を現せ!!」

絶対にどこかに居るはずだ

どこにいる!

このジジイみたいな声の主の奴が

「少年よ、少年よ、少年よ、少年よ、少年よ、少年よ、少年よ、少年よ、少年よ、少年よ、少年よ……」

うぜえ

「少年、少年つてうるせえよ!」

「少年よ…… 大志を抱け!」

「ってクラーク博士ネタかよ!!」

「当たり前!!」

な、なんだ！？ 急に声が女の子っぽくなりやがった！？

「こんにちわ、少年」

「少年ゆうな、俺は……？」

なんでだ？ オイオイマジかよ……

なんで自分の名前がわからない、知ってるんだけどわからねえ

「クスクス」

「オイ！ なんで俺の名前がわからねえんだ！？」

「それはね、少年君が死んでるからだよ、輪廻の環から外された少年……今の身体だって私がデータから引っ張って作り直した擬体なんだもの、名前なんてついてるはずないでしょ」

データから引っ張って作り直した擬体？

「うち……もう少し詳しく話せ！」

「私に舌打ちするなんて少年が初めてよ、でもいいわ説明してあげる」

「ああ、頼む」

「じゃあ……あなたが死んだ原因って知ってるかしら？」

もしかして、鉄骨の事か？

「鉄骨が何故か落ちてきて死んだ、じゃねえのかよ」

「じゃあ、なんで落ちてきたのかしら？」

……あれ？　なんでだ？

そもそもあの鉄骨は本来はビル建設などで使われてるような鉄骨だ

……でも、どこの鉄骨だ？　ビル建設なんかしてないぞ？

しかも俺の真上に落ちてきた……偶然か？

もしか、異世界トリップじゃなくて転生か？

「少年が死んだのはとある馬鹿神がミスったからです」

うっわ

よくある転生小説だ……

「次は、少年が名前を知らない理由ですね……少年はオリジナルではありません」

オリジナルじゃない？

「そりゃあ俺がコピーやクローンだって言いたいのか？」

「いいえ、間違えなくオリジナルではなくオリジナルでもあります」

「なんか言ってることが矛盾してないか？」

「死んだときの身体はどおなりましたか？」

そりゃあ鉄骨でぺしゃ……？

「クスクス……少年の魂はオリジナルですよ、身体は少年が死ぬ前の身体データをもとに一時的なモノを器にしているだけですから」

「でもそれなら名前を覚えてるんじゃないのか？」

一樣俺の身体なんだし

「今の身体の血液は何色ですか？ 血液は流れてますか？ そして心臓は動いてますか？」

そんなもん赤で心臓は……

「オイオイ、ホントにマジかよ……」

動いてねえし……

「言ったでしょう？ その身体は一時的な器だつて、それに少年はあの世界から除外されました、歪みとなる存在を世界が存在させると思うんですか？」

東方幻想郷理論か……

というかマジに世界の意志ってあったんだな

「魂も不完全、器も不完全な状態よ？、まあ名のれない理由も他にあったけど……運が良かったね、もう少しサルベージが遅かったら記憶すらも失うところだったんですよ、しかもミスによって転生の環から外されてミスのおかげでゼウスですら干渉不可能な状態だったんですから」

全知全能の神が不可能だって？

マジ笑えねえじゃんか……でも

「ならあんたは何なんだ？　ゼウスすら不可能な事を可能にしたあんたは？」

「私は支配神、別名は偉大なる意志や全世界の意志と言われてるよ」

支配神？　偉大なる意志？　全世界の意志？

世界の意志と何が違うんだ？

「私の仕事は世界の意志を聞いたり、修復したり、作ったり、壊したりすることよ」

ああ、何となくだが理解できてきた

コイツはメインのサーバーみたいなもんか、そして世界の意志ってのはサブのサーバーって事なのか？

「でその偉大なる意志様が俺に何のようだ？」

「その名前で呼ぶのね……」

「いや、落ち込まれても名前知らないし」

「……じゃあサラでいいわ、今考えた」

いや今考えたって、それでいいのかよ……

「わかった、サラ・コナー」

「……もう一度言ったら少年の名前をジョン・コナーにするよ、しかも偽名不可で」

「すまん悪かった、もういわないから止めてくれ」

「わかればいい」

「クスクス……さて、なんで関わったかだったわね」

「ああ」

「それはね、私の仕事に協力してほしいからよ」

「協力って何をすればいいんだ？」

断れないな、こりゃあ……

断ったらどうなるか簡単に予想つくし

「あら、乗り気ね」

「断ったら俺じたいを消すつもりなんだろう？」

「当たり前だよ」

やっぱり当たったか……

「俺なんかが何をすればいい？」

「それはね少年が私と契約して力をもつて、その次はその力でいろいろな世界に行って世界の意志が作ったり運命に干渉する事よ、ぶっちゃけマンガやゲームの世界を原作ブレイクしろってこと」

原作ブレイクか……

こりゃ美味しい話かも、しかも読んだ小説とかよりも待遇いいし……

「力って？」

「力は力よ、レアスキルを5個まででどうかしら？」

レアスキルを5個か……

「5個内ならどんなレアスキルでもいいのか？」

「ええいいわよ、個数以外の制限はないわ」

「なるほど……」

「まあ決まったら私を呼びなさい、私はいろいろな準備をしとくか

ら

5個か……

やはりチートがいいな

しかも沢山応用できるやつをな

02 再構築+進化 Ⅱ 我はチートなり（笑） そして夢の崩壊（涙）（前書き）

もうむっちゃグダグダ……ですね

（T^T）

02 再構築+進化 Ⅱ 我はチートなり（笑） そして夢の崩壊（涙）

よし、決まった！

これならいろいろ応用できる

「ラサ、決まったぞ！！」

「まあ叫ばなくても聞こえてるけどね」

いや、今だに声しか聞こえねえし

そもそも気配もわからねえのに……

「で、この先の運命を決めるスキルよ、後悔はないかしら？」

「ああ、ねえよ」

「クスクス……じゃ聞くわ、1つ目」

「対価無効化」

「……考えたわね、対価無視なんて」

「ああ、好きに使うならこれがねえとな」

「まあわかったわ、次は？」

「対象破壊」

「またどれらいのを選ぶわね……それ、破壊神のスキルよ」

「だろうな、そして創造だ」

「予想してたわよ、破壊神に続いて創造神まで……」

「あと知識的なスキルも要るな」

創造能力があっても物がわからなかったら使えないし

「まあ創造なんかを使うなら必要ね……使いやすくアレンジしとくわ」

「感謝するぜ、最後は境界操作だ」

「あら最後の最後でマニアックなスキルを選ぶのね」

別にいいだろ、東方好きなんだから

「それにしても他にもレア系なら沢山あるのに……これじゃあ魔法とか使えないわよ？」

魔法か……

だが上手くスキルを使えば魔法を使えるはず、しかも限界なしで……

「構わねえ、もうスキルで可能にする方法を考えてる……他のスキルよりこっちの方がいろいろ応用できるしな」

「へ」

「とくに無限の剣製はチート仕様で可能だ、魔法や他のスキルは創造を使つて使用可能になる」

他の方法もあるがな……

しかしなのは界に行くとするとデバイスも必要になるか

スキル練習or掌握してたほうがよさそうだ……

「なあサラ、スキルが使えるようになったらここで修行してダメか？」

「え？ ああ別にいいわよ、最初っからそのつもりだし」

へへ 結構考えてくれてるんだな……

”チーン”

なんだ今の音？

「あら、できたみたいね」

まさか、まさかな……

「一つ聞きだいたが……」

アレじゃないよな

「なにかしら？」

「今の音って……なんだ？」

「え？ あゝあれ、少…少年の身体ができた音よ」

やっぱりな……

「電子レンジかよ！ 俺の身体は冷凍食品なのか！！ ってオイ！
なんで少年ってところで間を作る！！」

「……フッフ（黒笑）」

また嫌な予感が……

てかいちいち「（黒笑）」て言うなら姿表せよ……めんどくさ

「まあ気にしないの！」

気にしないか……

……

「絶対気にするだろ！！」

「ときに少年……」

「……なんだよ？」

「……………気絶しなさい」

は？

……………ヤバいこのまま流されると絶対に危険だ！！

「無理！ ヤダー！！」

「はあ仕方ないわねえ……………」

ふう……………

助かった

「エイッ♪」

「！？」畜生……………」

不意打ちかよ……………」

頭に何か落ちてきやがった……………」

巨大タイヤか……………よ……………」

ドリフのコントじゃあねえのに……………」

「やべ……………意識が……………」

ちくしょう……………」

……

……

「はぁい、起きて！」

糞ねみい……

「っち……起きろってんだろぅが！ 蹴り飛ばすわよ！！」

言ってる……身体もないくせに

「イタっ！？」

畜生……本当に蹴りで起こしやがった
いてえ……

「は？ なんで俺を蹴れたんだ」

「そりゃあまあ……世界補正よ」

「……無駄な所に無駄な力使うなよ」

「まあいいじゃない？ その様子じゃあ無事に転生できたみたいね
……クスクス（黒笑）」

「！？ そうだ俺の身体！？」

気絶させられたんだった

やはり……遅かったか……

「無事に」転生したわよ……私が考えた設定でね」

「それがこの身体だつていうのか!!」

最悪だ……

こんなの俺じゃねえ……

白髪、金色の瞳……ここまではOKだ

むしろ好感が持てる……しかし……

「なんで”女体”なんだ!」

しかも俺はこの身体の元ネタをしってる……

……クソフレ様だ

アルトネリコネタかよ!!

やるならアヤタネが良かったのに……

「うるさいわねえ……キャンキャン吠えないの」

「ちゃんと理由を説明しやがれ!!」

「それは……」

「……それは？」

「それは……私の趣味よ!!」

[illegible]

「別にいいじゃない」

「よくねえええええ！！！！！」

「……あんまりうるさいと身体について説明しないわよ？ 身体もいろいろ魔改造したんだから」

ツク

まだなにかあんのかよ……

「畜生」

「いい子ね……じゃあ説明するわよ」

「畜生……ああ、頼んだ」

「クスクス……じゃあ気づいてるかもしれないけど素体になったのはあるゲームのハーヴェスターシャっていうゲームのキャラよ、知ってるかしら？」

「ああ、知ってる……」

「様、3ではお気に入りキャラからな……」

しかしな……

「中身は全然違っけどね……まず一つ目、色が能力によって変わるってこと」

元ネタで言うとXPフレームとVISTAフレームのことか？

「破壊能力なら薄い青色の髪と同色の花の髪飾りと右に白い翼」

そのまんまだ……

破壊能力は元ネタで言えばVISTAフレームか

ならこの先は予想できるな……

「創造能力なら薄い桃色の髪と同色の髪飾りと左に白い翼」

予想的中だな

創造能力はXPフレームか

なら境界能力は薄い紫色だったりしてな

薄い紫色Ⅱ紫Ⅱゆかり的な流れで……

まさかな……

「境界能力なら薄い紫色の髪と同色の花の髪飾りと両方に翼よ」
orz

同じ考えだったか……

配色はサラと同レベル……

「どうかしたかしら？」

「いや何でもない、続けてくれ……」

「そう……知識能力＋待機状態だったら今の色、つまり白い髪と同色の髪飾りと翼なしが両方ありの2パターンになるわよ」

「これで全部か？」

「いえ、あと3つあるわ」

3つもかよ……

「2つ目、キーワードを言えば原作でいう戦闘モードになるわ」

「キーワードね……」

「この状態では全ての能力を同時にかつ快速かつフルで利用できるわ、まあいわばチートモードね」

チートって一つでもチートなんだがな……

対価無しにしてんだから当たり前だろ？

「このモードを使用するにはさつきも言ったようにキーワードを言えばなれるわ、原作と同じ仕様で（笑）」

つまりアレか？

「俺にあれを言えってことか？」

「ええ当たり前よ」

いわばノーマルエンディングのラスボスエンカウントシーンか……

つまり俺はあの和服熟女になると……

ああ……なんかすごく面倒くさくなってきた……

「まあ容姿は少し変更してるけどね」

「どこがだ？」

「まず熟女じゃなくなり胸のない白長髪と血のような赤黒い着物少女なるわ、それに後ろに6本の刀が抜刀状態で浮遊してるわ、しかも普通に使えるし浮遊状態でコントロール可能……そして刀は強力な刀ばかりよ」

「ずいぶん変更したな……」

「ええ！ 私の好みに変更させてもらったわ！！」

そんなに嬉しく言われても共感できるか変態！

まったく……好き勝手に身体を作り替えやがって……

これから女性で生きないといけねえなんて鬱だ……

そしてまだ2つもあるなんて鬱だ……

ああ……鬱だ……

「そして次、変装用にあるスキルを追加したわよ」

どうせろくでもねえことだろ……

「それは……自分の身体を作り替えてパターン登録ができるスキルよ」

俺にも希望があつた!!

女体におさらばができる!

「これで男性登録すれば!!」

「……残念、それはできないわよ」

「は?」

「つまり女体限定……一生あなたは女性であり続けたいいけない
全世界のルールよ、破壊や創造や境界能力を使ってもあなたは一生
女性よ!」

さ……サイヤクだ……

世界の災厄だ……

男の娘の方がまだましだ……

「最後に全身体パターンで衣装パージが可能よ、どんどん脱いで力を強めなさい……まあ結局は人前で脱ぐことになるけどね」

「俺は露出狂にするきか!!」

「失礼な! 露出狂だなんて……アル○ネリコ3のキャラ達の目の前であなたはそのセリフを言えるの? そしてフェイト(大人)を見習いなさい!!」

「……」

「まったく、ただ一言だけフェイト(大人)に言いたいわ……露出度グッジョブよ! まあもう少し脱いで欲しいと思ったけど、あれは水着っぽくてそれがまたいい味だしてるわ」

「サラ……この変態女!!」

「ふん、私は欲望に忠実よ? それと私は変態じゃないわ淑女といいなさい。私はただの百合じゃないわ、BLもGLも普通も好きな腐女子よ!!」

「威張って言うな!!」

「愛ある事は誇れるわよ!! ……あなたには寿命はないし、私が無くならない限りあなたは消滅しないしね」

つまりずっと女性のまま無限の寿命を生きなさいってことが……

……

あーめんどつちい!!

……もういいや

……ならば開き直ろう

サラが淑女という変態ならばそれに反するパーフェクトメイ……ゲ
フンゲフン

パーフェクトおぜ……パーフェクトお嬢様（タイプS）を極めよう

「悟ったようねあなた」

「……悟ってねえよ、ただ諦めただけだ」

「それが私があなたに求めていた悟りよ（諦めよ）」

つまり身体は女、心はオカマになれと求めていたんだな……

「さああなたに女性の道を学ばせよう……さあ女男、精神力の残りは十分か？」

いや、もう精神力なんてそんな物髪の毛一本分、汗一滴もないんだがな……

「まあ覚悟や意志や精神力が無くても強制的に学ばせるんだけどね」

……

.....ひびくよ

02 再構築+進化 Ⅱ 我はチートなり(笑) そして夢の崩壊(涙) (後書き)

いや、主人公がクソフレ様になってしまうとは……

(「□」;)!!

そして女体化乙

(^人^)

サラと主人公の性格と口調がバラバラ……うう

。――

一話更新するのにこんなに時間がかかるとは……待ってた方

どうもすみませんでした

>(――)<

そして次も駄文です

では！

(^―^)(:)()()コンコン…

03 え？ 妾の名前？（前書き）

長らく放置してました

サーセン

m () m

今回も破天荒で行こうと思います

(* m *)

03 え？ 妾の名前？

.....

.....

..... もう女嫌い

「..... 地獄よ」

「まあねー 女性の知識はいろいろ大変なのよ.....」

「はあ..... やつと女性勉強から抜け出せたわね..... 勉強（調教）が
終わったわ」

「ええ、私にとってはとても楽しい時間だったわ♪」

「..... 汚された、妾の魂が変態に汚されたわ」

女性を勉強するという調教が終わったら口調まで変更された

しかも強制的に.....

思考の言葉まで変更させられるだなんて.....

せめて、せめて妾が男だったということは未来永劫記憶しよう.....
絶対に！

「..... 忘れてたわ、あなたの名前を決めないとね」

名前？

自分の名前ですか？

「男のな「駄目よ」ですよね」
言葉を被らせて言わなくなつていいじゃない……

「そんな名前をするならハーヴェスターシャかクソフレとか、た
ら子って名前にするわよ？ 妙子^{たえこ}って名前もいいかもね……」

いや、元ネタの名前つかつたらさすがに危険ですって

それに恋盾の主人公名をもつてこないでください

それにたら子ってなんですか……

名前、名前……

「女性の名前なら何でもいいの？」

「ええ、私のオススメはたら子よ？」

いや、たら子ネタはもういいですから……

「……じゃあ憐華^{れんか}ってだめ？」

「……いいわよ」

今の間はなんですか！？

そんなにたら子がよかったの!?

「じゃあ登録していいのかしら? 一度しかチャンスはないわよ? どこか間違っても絶対に絶対に変更できないわよ?」

「ええ、妾の名前は憐華がいい」

「……………ファイナルアンサー?」

サラ、うざい……

「ファイナルアンサー……………」

「わかったわその名前で登録するわね……………【憐華】」

これで名前は決定したみたいね……

「【憐華・H・T】っと……………フッフ」

はい?

「……………ねえ、サラ」

「フッフ、何かしら憐華ちゃん?」

「……………H・Tってなに?」

「ん? あなたの名字よ」

「……省略しないとどんな名前になるの？」

「フッフ……あなたの名前は憐華、憐華・ハーヴェス「もういい……」クスクス」

死んじゃえ……

「サラの……バアカアアアア！……！」

「（いいわ、憐華……もの凄くゾクゾクしちゃっ）」

「はあはあ……なにしてくれちゃってるの！？もう二度と変更できないじゃない！！」
「ただアルトネリコ好きなの？死ぬの？馬鹿なの？」

「……つい欲望にカッとなってやったわ、だけど反省も後悔もしてないわっ」

死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ

死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ
死んじゃえ

声を楓に変更……

「サラなんて……サラなんて死んじゃえバインダーー！！！」

「（ふふ空鍋ネタね……しかもちゃんと声を変えた無駄クオリティ、
というか結構余裕あるじゃないの……）」

「絶対に、必ず、名字は名乗らない」

本当にこの小説自体消されるわよ、ここまでパクったら……

「別にいいわよ、どうせネタだから……」

「変な所でネタを使わなくてもいいの！！」

「嫌よ 私のゴーストが叫ぶのよ……全てにネタを、ネタにはジャ
スティスをつてね」

「つてね」じゃあないわ！！それにそんなジャスティス捨てち
やえ！！」

「だめよ、シリアルなんて私は認めない……私に関わった者すべて
カオスにするのが夢 D A K A R A ！！」

なんていう外道なのよ

「さあ名前も決まったし次の準備をするわよ」
」

03 え？ 妾の名前？（後書き）

また忘れられた時に更新いたします（笑）

さていつの間にか更新されるか……

（ー、）

アルトネリコ3

クソフレ様ファンの方々

すみません

作者もクソフレ様大好きです

けして嫌いなわけではありません又

4 - 前 能力解禁（祝）！！ 前編【南無阿弥陀物byΣ】（前書き）

今回もサラが常識を粉々にする破天荒＋欲望満載な話（笑）

4 - 前・能力解禁（祝）！！ 前編【南無阿弥陀物byΣ】

憐華精神汚染度60%

- ・サラにより憐華の口調を女性風に改変
- ・私↓妾に改変
- ・憐華のテンション70%低下

.....

「さあ次へいくわよ」

サラ..... あなたキャラが変わってます、自重してくださいね

「今どこかで自重しろって電波がきたわ..... 私はそれに反逆する！」

..... そんな力を込めてまで宣言しなくなっただっていいからね？

.....

もう.....

駄目だ.....

腐ってやがる.....

自重させるには遅すぎたわね.....

「さあ〜次のミッション！！」

大声で言われるからすごい耳障り

「サラ、うるさいよ……少しあて「フフフ、次のミッション……！
内容はもってる能力をマスターすることなのよ……！」ううゝ」

O S H I O K I フラグ無視しないでよ

この破天荒キャラめ……！

「まずは破壊能力つてことで気合いよ！ 気合いがあれば人間超えられるんだから……！」

熱いです

「ごめん、サラ……精神力がなくなつてついていけなくなつちやつた……」

「全くなつてないわね、そんなに私のテンションつて疲れるかしら？」

「ハイ……」

「そりゃ……ごめんねごめんね……！」

「……」「ゴホン……ハイハイ、わかつたわよ普通にやればいいのね。真面目つてくだらないから嫌いなのに……しかしテンションで相手をここまでできるだなんて凄いわ私……！ ぜひ憐華に仕込みたいわね……」

あゝどうして妾はこんな奴と契約したのかしら……

「じゃあ真面目に行くわよ、憐華」

「はい」

先生や師匠とか言つとまたカオスフラグが立つからノーマル返事でいいわよね……

「まず対象破壊、まあ名の通り対象を破壊する能力ね……対価がないから指定すれば私以外なんでも破壊できるわ」

「詠唱などはあるの？」

「二通り用意してるは、一つ目は手を前に出して《○○ヲ破壊スル》て唱えるのよ。二つ目は手に破壊する物の核をだして《キュツとしてドカーン》と言いながらその核を握りつぶすの」

東方ネタ乙

フランの使い方なのね……う？

「核の出し方がわからないんだけど？」

「まあ……実際やればわかるわ、今から対象を出すからそれを破壊する気持ちで手に力を込めなさい」

「わかった……やってみるわ」

「じゃあ出すわね……自分のモードチェンジ忘れずにね」

妾の50メートルくらい前に鉄の甲冑の置物が出てくる

さてモードチェンジね

「モードチェンジの方法は『リリカルマジカル 破壊モードに変身

』よっ」

……嘘こけ

「再設定開始、仮モードチェンジシステムを導入……仮モードチェンジシステム起動……00モードから02モードへチェンジ……発動」

私の体の配色が一部、白から青に変わる

ククク……よし、私の想像通りね

「妾があんな恥ずかしいセリフを言うと思わないで!!」

「ツチ まあぶつちやけ自分で好き勝手に変更できるわ……気づかなければいいものを」

……ふふ、勝った（笑）

「さて……相手を破壊する気持ちで力を手に集中して……キタわ」

これが核ね、なんかクリスタルみたいな物が手に乗ってるし

「《キュッとしてドカーン》」

……甲冑が弾け飛んだ

うわあゝ人に対して使ったら間違えなくグロいわよね……

だいたい3センチぐらいのが散らばってるし

「こっちのやり方だと決めた対象は必ず弾け飛ぶわ、まあ対象一部
一部でもできるからやってみなさい」

また妾の前方に甲冑が出てくる

「最初は腕の部分を狙いなさい」

「腕……《キュツとしてドカーン》」

「次、あとはあの甲冑の周辺を狙いなさい」

周辺っ言っただって……まあやってみる

「……《キュツとしてドカーン》」

！？ 空間自体弾け飛んだ！？

「恐っ！！」

「フッフ、あともう一つの詠唱では対象は弾け飛ばないで消え去る
わ、証拠も残らないわ」

「……《甲冑ノ残骸ヲ破壊スル》」

妾が決めた対象がスツと消えた

「なるほど……本当に証拠が残らない……使えるわ」

「あらあら……まあこの力を使えば完全犯罪も簡単よ、代価もないんだがら創造と一緒に練習うしなさいな」

「了解」

「次は創造ねこれは簡単よ、はいチェンジして」

「仮モードチェンジシステム起動、02モードから01モードへ……発動」

……青からピンクへちゃんと色が変わったみたいね

「まあまずこのレシピ通り作ってみようか！」

紙が落ちてきた

ええ〜と……

「設計図は頭にぶち込んだかしら？」

「ええ、入れたわ」

「ならば次は詠唱、詠唱は《○○ヲ創造スル》よ、その設計図を強く思いながら使えばちゃんと創造できるわ」

「わかった《崇り神ヲ創造スル》」

前方に光が集まり……

「つてこないで〜!!」

「ほらほら逃げなさい、捕まったら犯すわよwww」

逃げる！！

「くるなあああ！！！！」

【←全て走りながら行ってますby作者】

「アハハハハ」

レシピに書かれていたのは、もののけ姫で有名な祟り神のだったら
卑猥な触手にする？ 盛るぜえゝ盛るぜえゝ！！ 超盛るぜえ！！
！ の別名卑猥神でした！

それにサラが祟り神とユニゾン！！（現在、サラが卑猥神を操作し
てます）

サラのテンションがヘブン状態に再突入！！！！（サラの欲望が卑猥
神にインストールされました）

そして妾に襲って来た！！！！（卑猥神が妾を標的に）

「妾の馬鹿ああああ！！！！」

なんちゅう物を妾は創ってしまったんだ！

「ホラホラゝゝゝ」

武器は！ 何か武器は無いのか！！

「創造創造創造！！！！」

なにを創造すればいいのー！！！！

ってじゃない！ モードチェンジよ！

「仮モードチェンジ」無駄無駄この瞬間、変身スキル縛りを発動
！」キサマアア！！」

この卑猥女！

ツチ チェンジができないから創造しか使えないじゃない！！

って体に触手が！！

「H A N A S E !」

「フッフ、憐華……ここにこの子を倒せるレシピがあるわ」

「何イ！ それをこっちに渡せ！！」

「焦るなつて……どおしようかなあゝ可愛そうだから渡してあげよ
つかなあゝ」

頼む！ そのレシピが私に必要なのよ！！

「ってんなわけじゃないじゃないじゃない、今は私のお楽しみ中なのよ
？ 渡すわけじゃないでしょう」ヒャーヒャッヒャッヒャッ！！」

「サラアアア！！！」

ふざけてやがる！

「これであなたの手足を縛ったわ……次はロストメイデンするだけよ、フッフ」

「……」

「あれゝ 諦めたのかしら？」

「……何勘違いしてるの」

「ヒヤ？」

「さあ行くわよオーバースキル発動《妾の世界ヲ創造スル》！！！」

この瞬間、光が全てを覆い世界を私の世界に塗り替わる

「ここは妾の妾だけの願いを叶える世界……さあ卑猥王、エロ成分の貯蓄は十分かしら？」

「ぬかせ！ 発動《ロストM「行くわ！！ 願いをドロー！ そして発動！ 『幼女高町なのは召喚！ 海の上のスターライトブレイカー（殺傷設定）』」何ですって！？」

私の隣に小悪魔が出現しサラ（卑猥王体）の上に移動する

「これは……バインド！？ ぬ、抜けれない！？」上空で魔法陣が広がり魔力があつまり始める

「クツ だけどこのまま打てば憐華ちゃんにもあたるわよ」

憐華ちゃん言うな

「ククク、願い《私には当たらない、食らわない》」

「!？」

な「これが私の全力全壊！スターライト——ブレイカー——!!」

「ギャース!!」

「アツハツハ」

南無阿弥陀物

………

………

………

「あ……ありのまま今起こった話を話すわ！

『妾は奴の前で力を使っていたと思ったら、いつの間にか触手に襲われていた』。

な……何を言っているのかわからないと思うけど、

あまりに急な展開に頭がどうにかなりそうだった……

エロゲだとか同人だとか、

そんなチャチなもんじゃあ断じてない。

もつと恐ろしいものの片鱗を味わったわ……」

「ポルナレフ乙かれゝ（笑）」

「ふ……」

「ふ？」

そんなチャチなもんじゃあ断じてない。
もつと恐ろしいものの片鱗を味わったわ……」

「ポルナレフ乙かれゝ（笑）」

「ふ……」

「ふ？」

「ふざけないでよ！！　なによあれ！！」

触手なんて！

「好きなんです、触手物が……あなたは嫌いなのか？」

「エロゲーだったらいい、だけど絶対現実にしなで！！」

まあ触手は半々……

ただそれはゲームだから……　だけど体験してあんなに恐怖ノ化身なものだなんて初めて知ったわ

……ゲームで襲われたヒロインのご冥福を祈ろう

「あ、それ無理♪」

「なんで!？」

「もう実世界にあるから……まあぶっちゃけた話、ゲームの世界に行けるってことはその世界があるってこと」

「げ、まさか……」

「あるわよ」触手関係のPCゲームの世界もね」それにファンタジーの世界では犠牲者も沢山いるわよ（笑）」

「やだ！ そんな世界に妾は行きたくない!!」

「DA・ME♪」

「あんたムカツクウウウウ!!……見つけたらほぼ燃やしてやるわ……消し炭ものこらないように……あんなの妾達、女の敵よ!!」

「（フッフ……憐華ちゃんどんどん魂が染まってきたわね、ここまできたらあともう少しだわ……）」

ざわ……ざわ……

「なに!？ この寒気!」

「さあ後半戦いくわよ」

ゆっくりジタバタした結果がこれだよ

もうだめだ

To Be Continued

4 - 前 能力解禁（祝）！！ 前編【南無阿弥陀物byΣ】（後書き）

次は少しクールダウンします

今回の憐華は口調が完全に変更します

まあ今まで口調が決まらないので悩んでただけですが

妾ときたら予想されそうでちょっと寂しいです

今回の作者の一言

【私は触手物大好きです♪】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7502m/>

偉大なる意志との契約者

2011年10月6日21時30分発行